

学校の教育目標(重点的取組)	各項目		めざす姿	NO	対象	質問項目	R6前期	R7前期	1年	2年	3年
Ⅰ「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた、主体的・対話的で深い学びの実現	個別最適な学び	主体的・対話的で深い学び	一人一人が学習進度や能力、関心等に応じて、学習を進めていくことができる	1	教職員	生徒が目的を持ち、学習に取り組めるよう個に応じた指導を行っている	95%	96%			
					生徒	得意分野や好きな学習内容を発見し、自信につながるような学習をしている	95%	94%	94%	97%	93%
					保護者	お子さんは、学習する目標を持って取り組んでいる	85%	85%	85%	83%	87%
				2	教職員	生徒は試験などに向けて、計画を立てながら取り組んでいる	95%	100%			
					生徒	試験に向けて、目的に合った計画を立てながら実践している	89%	86%	87%	85%	85%
					保護者	お子さんは、計画的に学習に取り組んでいる	66%	74%	77%	75%	70%
				3	教職員	つまずきや困りを克服するための適切な支援を行っている	86%	96%			
					生徒	授業でわからないところを、調べたり質問したりして、そのままにしないようにしている	88%	88%	90%	83%	90%
					保護者	お子さんは、学習でつまずきのあるところを、自分に合った方法で解決しようとしている	74%	79%	82%	79%	78%
				4	教職員	授業では「めあて・振り返り」、「課題・まとめ」を提示し、指導と評価の一体化を図っている	86%	91%			
					生徒	授業の振り返りでは、「めあて」が達成できたかを振り返り、次の学習につなげようとしている	92%	91%	93%	91%	89%
				5	教職員	学びを紡ぐ5つの約束を意識した授業づくりができています(今年から)		83%			
	生徒	学びを紡ぐ5つの約束を意識して学習(授業)に取り組んでいる(今年から)			84%	84%	87%	81%			
	協働的な学び		多様な人々と協働しながら、よりよい学びを生み出すことができる	6	教職員	生徒同士の異なる考え方を組み合わせ、よりよい学びを生み出すよう工夫している	95%	100%			
					生徒	授業の交流する場面では、自分の考えを伝え、仲間の話を参考にするなどして、自分の考えを深めるようにしている	93%	98%	98%	98%	98%
					保護者	お子さんは、他者の話を聞き、自分の考えに生かすことができています	86%	91%	92%	92%	90%
				7	教職員	生徒の主体性や協調性を育むため、多様な人々と協働する機会を設定している	91%	100%			
					生徒	授業や学校行事等で多様な人々と協働することを通して、主体性や協調性が身についてきた	94%	98%	97%	99%	97%
					保護者	お子さんは、主体性や協調性が身についてきた	91%	94%	96%	93%	95%
	ICTの活用		ICT端末等を効果的に活用することができる	8	教職員	授業において、ICT端末等を活用する機会を積極的に設けている	91%	87%			
					生徒	ICT端末等を積極的に活用して学習などに取り組んでいる	90%	98%	97%	98%	95%
					保護者	お子さんは、ICT端末等を積極的に活用して学習などに取り組んでいる	87%	89%	88%	88%	90%
				9	教職員	生徒は、ICT端末を正しく使っている	86%	91%			
					生徒	ICT端末を正しく使っている	91%	99%	97%	99%	95%
					保護者	お子さんは、ICT端末を正しく使っている	93%	95%	98%	94%	92%

【分析及び対策】全体として昨年度から改善が見られる項目が多い。協働的な学びは教職員95→100、生徒93→98、保護者86→91と一貫して上昇し、授業内の対話場面や多様な協働機会の設定が定着してきたといえる。個別最適では教職員90→96、保護者75→79と評価が上がる一方、生徒は91→89と微減。とりわけNo.2「試験での計画的学習」は、教職員95→100、家庭評価は66→74と上昇したが、生徒89→85へ減少。この認識のギャップは、生徒のアンケートにのみある目標に応じて計画するということができていないことを示しているのではないかと分析する。そのため、目標から逆算していく計画の仕方について指導していくことが求められる。つまずき支援(No.3)は教職員86→96、生徒88(横ばい)、保護者74→79と大幅改善である。生徒や保護者へICTでは生徒90→98、保護者87→89と活発化する一方、教職員の授業内活用は91→87へ後退した。その原因の1つに、クロームブックの使用に慣れていない教職員がいることが挙げられる。ICT研修を行うことや教職員間で実践事例を共有できるようにしていくことが大切である。新設のNo.5は教職員83、生徒84でベースラインとしてこれから90%以上を目指していく。

【分析及び対策】全体として昨年度から改善が見られる項目が多い。協働的な学びは教職員95→100、生徒93→98、保護者86→91と一貫して上昇し、授業内の対話場面や多様な協働機会の設定が定着してきたといえる。個別最適では教職員90→96、保護者75→79と評価が上がる一方、生徒は91→89と微減。とりわけNo.2「試験での計画的学習」は、教職員95→100、家庭評価は66→74と上昇したが、生徒89→85へ減少。この認識のギャップは、生徒のアンケートにのみある目標に応じて計画するということができていないことを示しているのではないかと分析する。そのため、目標から逆算していく計画の仕方について指導していくことが求められる。つまづき支援（No.3）は教職員86→96、生徒88（横ばい）、保護者74→79と大幅改善である。生徒や保護者へICTでは生徒90→98、保護者87→89と活発化する一方、教職員の授業内活用は91→87へ後退した。その原因の1つに、クロームブックの使用に慣れていない教職員がいることが挙げられる。ICT研修を行うことや教職員間で実践事例を共有できるようにしていくことが大切である。新設のNo.5は教職員83、生徒84でベースラインとしてこれから90%以上を目指していく。

令和 7 年度 前期 学校評価アンケート（分析及び対策）No. 2										
学校の教育目標（重点的取組）	各項目	めざす姿	NO	対象	質問項目	R6前期	R7前期	1 年	2 年	3 年
Ⅱ 自主的・主体的・創造的な取り組みを引き出す生徒会活動等、魅力的な教育活動の展開	生徒会活動	自ら生徒会活動・学級活動等に取り組むことができる	10	教職員	生徒に学校の教育目標達成のため、「6期ステップ」（各期）の目標を意識して取り組ませている	91%	96%			
				教職員	生徒は、「6期ステップ」の重点目標を意識して取り組めている	77%	87%			
				生徒	学校の教育目標達成のため、「6期ステップ」の各期ごとの目標を意識して取り組めている	92%	92%	91%	92%	94%
			11	教職員	生徒は、生徒会、委員会、クラスの係活動に積極的に取り組んでいる	91%	96%			
				生徒	生徒会、委員会、クラスの係活動にリーダーシップやフォロワーシップを発揮して活動している	85%	82%			
				保護者	お子さんは、生徒会、委員会、クラスの係活動に自主的に取り組んでいる	86%	91%	93%	88%	92%
			12	教職員	生徒は、学校行事（体育大会、青垣祭等）に積極的に取り組んでいる	100%	100%			
				生徒	学校行事（体育大会、青垣祭等）に積極的に取り組んでいる	93%	99%			
				保護者	お子さんは、学校行事（体育大会、青垣祭等）に積極的に取り組んでいる	95%	96%	99%	95%	98%
	総合的な学習の時間	自ら課題を見付け、自己の生き方を考えることができる	13	教職員	総合的な学習の時間では、生徒に課題を設定する場を設けている	82%	87%			
				生徒	総合的な学習の時間では、自分たちの取り組む課題を設定しながら学習に取り組んでいる	97%	98%			
			14	教職員	調べたことを資料や文章にまとめさせ、発表内容の組み立てを工夫するように促している	100%	100%			
				生徒	自分たちの調べたことを、資料や文章、話の組み立てなどを工夫しながら発表できた	93%	95%			
			15	教職員	総合的な学習の時間では、本物に触れる機会を意識した単元計画をもとに指導している	91%	96%			
				生徒	総合的な学習の時間での活動や学びは、将来の自分のためになっていると感じている	91%	94%			
【分析及び対策】										
10の項では教職員は生徒に6期ステップに各期の目標を意識して取り組ませているの数値は昨年度よりも高くなっている。職員間で期の重点目標を元に指導に活かそうとする意識の向上が見られる。このことを生徒に伝わるように学年会等で案を練っていきたい。生徒も教職員も期ごとに振り返りを行っているので、成果と課題の考察をし、生徒のよりよい学校生活へとつなげていく。11・12の項は教職員の数値よりも、生徒・保護者の数値が低くなっている傾向がある。特に11の生徒のところは学年が上がるにつれて数値が下がっているので、リーダーのみならずフォロワーの言葉も意識させるとともに、集団生活の中で相手意識をもち他人を思いやる気持ちを育成できるように指導にあたっていく。13・15の項では教職員の数値が昨年度よりも若干高くはなったが、13の項は生徒の数値は高いので、教職員が単元を通してどのような力を身につけていくのか計画的に取り組んでいくことが求められる。15の項も昨年度よりは高くはなっているが、本物に触れる機会や体験的な学びを通して成就感や自己有用感をもたせるように指導の改善を図っていく。14の項はどの学年も単元の終末には発表で終わる形式が多いため、生徒もこのような活動に慣れていることがうかがえる。特に3年生は自己の生き方の追及について卒業レポートをまとめる機会があるので、3年間のゴールを意識して取り組ませていきたい。										

【分析及び対策】

10の項では教職員は生徒に6期ステップに各期の目標を意識して取り組ませているの数値は昨年度よりも高くなっている。職員間で期の重点目標を元に指導に活かそうとする意識の向上が見られる。このことを生徒に伝わるように学年会等で案を練っていききたい。生徒も教職員も期ごとに振り返りを行っているので、成果と課題の考察をし、生徒のよりよい学校生活へとつなげていく。11・12の項は教職員の数値よりも、生徒・保護者の数値が低くなっている傾向がある。特に11の生徒のところは学年が上がるにつれて数値が下がっているので、リーダーのみならずフォロワーの言葉も意識させるとともに、集団生活の中で相手意識をもち他人を思いやる気持ちを育成できるように指導にあたっていく。13・15の項では教職員の数値が昨年度よりも若干高くはなったが、13の項は生徒の数値は高いので、教職員が単元を通してどのような力を身につけていくのか計画的に取り組んでいくことが求められる。15の項も昨年度よりは高くはなっているが、本物に触れる機会や体験的な学びを通して成就感や自己有用感をもたせるように指導の改善を図っていく。14の項はどの学年も単元の終末には発表で終わる形式が多いため、生徒もこのような活動に慣れていることがうかがえる。特に3年生は自己の生き方の追及について卒業レポートをまとめる機会があるので、3年間のゴールを意識して取り組ませしていきたい。

令和 7 年度 前期 学校評価アンケート（分析及び対策）No. 3

学校の教育目標(重点的取組)	各項目	めざす姿	N0	対象	質問項目	R6前期	R7前期	1年	2年	3年		
Ⅲ 心と命を守る日々の教育活動の充実と組織的な推進	生活指導	基本的生活習慣を身につけ、自ら考えて行動することができる	16	教職員	生徒は、規則正しい生活を送ることができている	77%	83%					
				生徒	規則正しい生活を送ることができている	77%	78%	78%	83%	73%		
				保護者	お子さんは、規則正しい生活を送ることができている	80%	83%	88%	88%	74%		
			17	教職員	生徒は、あいさつすることができている	95%	87%					
				生徒	自分からあいさつすることができている	89%	97%	97%	95%	97%		
				保護者	お子さんは、自分からあいさつすることができている	87%	92%	93%	91%	94%		
			18	教職員	生徒は、時間いっぱい清掃に取り組んでいる	91%	74%					
				生徒	自分から時間いっぱい清掃に取り組んでいる	96%	97%	96%	98%	97%		
			心と命の教育	自分も他の人も大切に、仲間同士で支え合うことができる	19	教職員	生徒は、自尊感情が高いと思う	64%	65%			
						生徒	自分にはよいところがあると思う	87%	85%	86%	87%	84%
						保護者	お子さんの自尊感情は高い方だと思う	83%	86%	89%	83%	85%
					20	教職員	生徒の悩みや相談に親身に応じている	95%	96%			
	生徒	先生は、あなたの悩みや相談に親身に応じてくれる				90%	93%	95%	92%	92%		
	保護者	先生は、お子さんの悩みや相談に親身に応じてくれる				93%	95%	94%	95%	98%		
	21	教職員			学級は、他の人の思いや考えを尊重する雰囲気になっている	86%	91%					
		生徒			学級は、他の人の思いや考えを尊重する雰囲気になっている	90%	94%	94%	91%	97%		
		保護者			お子さんの学級は、生徒の思いや考えを尊重する雰囲気がある	94%	96%	98%	95%	99%		
	22	教職員			いじめのない学校・学年・学級づくりができている	91%	91%					
		生徒			いじめのない学校・学年・学級づくりができていると感じる	85%	83%	75%	82%	92%		
		保護者			いじめのない学校・学年・学級づくりができていると感じる	94%	90%	91%	90%	89%		
	23	生徒	授業以外で部活動や家庭等での体力づくりができている	77%	79%	84%	79%	72%				
		保護者	お子さんは部活動や家庭等で体力づくりをしている	76%	77%	83%	82%	68%				

【分析及び対策】

17の項目については、生徒・保護者の数値が大きく向上している。生徒自身は、朝から非常に積極的な挨拶をしているように感じる場面が多く、生活委員会などを中心に挨拶を通じた活気があふれている。しかし、教員側の数値が低下している事と、生徒と10ポイントの差があることから、挨拶のポイントや重点（はきはきと、自分から、目を見て）を焦点化して取り組み、今後も向上させていく事が必要である。

18の項目については、23ポイントの乖離が見られることから、生徒と教員で清掃への取り組みに関してのズレが見て取れる。生徒においては、時間いっぱい真剣に取り組んでいると感じているものの、教員側の目線で見た時には、時間の使い方や清掃への取り組みが不十分だと感じていることが挙げられた。整美委員会と連携し、区長集会に加え、清掃のプラスワンポイントや教員と一緒に清掃に取り組み、手順や分担をきちんと指導していく事が必要だと分析している。19については教員の値と生徒で20ポイントと大きく開きがでている。今年度も人間関係プログラムやSSTを実施しているものの、その効果がどれくらいのものかを検証し、より良い方向にしていける事も必要と考えている。また、授業においても一人ひとりを大切に授業づくりや聴く姿勢の徹底などで、自己存在感や自己有用感を高め、自尊感情の向上に努めていくことが必要とされる。20の項では昨年同様高い数値になっている。生徒と教員または保護者が緊密に話を行い、連携し合っている日々の姿が数値としても出ている。今後も積極的に生徒理解をしていき、家庭との連携を深めていく必要がある。22の項は生徒、保護者ともに昨年よりも数値が下がっている。学年・学級によっては、生徒が安心や安全を感じられていない様子も見受けられる。日常の中で生徒の様子をよく観察し、自分勝手な行動やいじめは絶対に許さないという毅然とした態度で対応する必要がある。また、声掛けや休憩時間などの巡回を有効に使い、安全・安心な学校の雰囲気を醸成していく必要がある。いじめアンケートなどの記述にも注視し、場合によっては学年道徳や特設学活などで人権などについて取り扱うことも必要であろう。23の項は例年数値が低いため、体育科とも連携し、向上できるようにしていく。